

教科	工業	科目	デザイン史
履修条件 対象生徒	選択履修 デザイン科 3学年		
学習目標	造形文化の歴史としてのデザイン史を学ぶことにより、過去に作り出されたものの中からその時代の生活や精神を読み取る。さまざまな造形活動の時代別・地域別の特性を比較し、その成立した背景を理解することにより、明日の造形文化を創り上げていく指標とする。 デザインが現在の生活の中で、われわれにどのような関わりを持っているかを考察する。		
学習方法	<p>[授業] 座学を中心に進める。 スライドやビデオ、インターネット等を用いて、多くの作品を鑑賞させる。</p> <p>[家庭学習] 基本的に家庭学習を課さないが、予習・復習を行うことが望ましい。</p> <p>[補習・その他] 考查前等において、特別プリントを用意することがある。 成績不振者については、特別に補習を行う。</p>		
学習計画 と ねらい	<p>&lt; 1学期末考查まで &gt; 1 序説 (1) デザイン史を学ぶ理由 (2) デザイン史の対象と領域 (3) これからのデザインを学ぶために</p> <p>2 近代 第1 近代デザインのはじまり (1) 産業革命の影響とデザイン (2) アーツ・アンド・クラフツ運動</p> <p>&lt; 2学期末考查まで &gt; (3) アール・ヌーヴォー (4) ポスターの興隆</p> <p>第2 近代デザインの成立と展開 (1) 近代美術の革新 (2) 近代デザイン運動の試み (3) バウハウス (4) アール・デコ (5) アメリカの工業デザイン</p> <p>&lt; 学年末考查まで &gt; 3 現代 第1 産業の復興と現代デザイン活動のはじまり (1) 日本の戦後復興とデザイン (2) 海外のデザイン動向 第2 産業の発展とデザイン (1) 高度経済成長とデザイン (2) 日本のデザインの発展・海外のデザイン動向</p>	<p>○デザインという言葉の概念を再認識し、人間の長い歴史の中での造形活動を時代別や地域別に理解していこうとする意欲を持つ。また、年表により対象とする時代の大きな流れを理解する。</p> <p>○産業革命によってもたらされた機械化による生産が、今日的な意味合いのデザイナーを誕生させた経緯を理解する。</p> <p>○アーツ・アンド・クラフツ運動が産業革命への批判から生まれ、手工芸を見直したことを理解する。</p> <p>○アール・ヌーヴォーの特徴的な造形感覚と国別の展開について理解を深める。また、ポスターの発展と様式について理解する。</p> <p>○20世紀初頭における前衛的な美術運動と近代デザインとの関連について考察する。</p> <p>○ドイツ工作連盟を中心とした規格化・標準化による機械生産について理解する。</p> <p>○バウハウスの教育課程における予備教育課程、工房教育の優れたシステムを理解し現代デザインに与えた影響について考察する。</p> <p>○アール・デコの様式的特徴を理解する。</p> <p>○アメリカの工業デザインが今日の消費型デザインの原型となったことを理解する。</p> <p>○戦後のデザイン運動の出発と現代のデザインが直面する問題について理解する。</p> <p>○ビジュアルデザイン、プロダクトデザイン、インテリアデザインの動向について理解する。</p> <p>○高度経済成長による社会問題の発生と、デザインの社会的責任について考察する。</p> <p>○ユニバーサル・デザイン、エコロジーなどの新しいデザインの考え方について学ぶ。</p>	
評価方法	①定期考查、②学習態度、③課題・提出物などを総合的に判断して評価する。		
その他			